

Nakari News Vol. 3



発行日：平成 28 年 12 月 4 日
第 3 号

発行：株式会社ナカリエステート
〒981-3121 宮城県仙台市泉区上谷刈 1 丁目7-35
TEL: 022-375-9424 FAX: 022-374-4569
HP: <http://www.nakari-estate.jp/>

この号の内容

- 1 ひとり言
- 2 小さなこだわり
- 3 新年会のお知らせ
- 4 インバウンド



1. 筆者のひとり言

[カレンダー&手帳]

皆様こんにちは。

最近めっきり寒くなりましたね。私は北国育ちなのですが、非常に寒がりであることなら一年を通して 30℃ 位の環境で生活したいと願っている程でして、理想の気候はタイのような熱帯気候です。

さて、今年も残り僅かとなりまして、普段お世話になっている皆様方から、お歳暮やカレンダー・手帳類などをたくさん頂戴しております。

私自身、カレンダーと手帳に関して、頂戴できるのを楽しみにしている企業様のモノがございまして、カレンダーはここ 4~5 年程、同じ企業様からのカレンダーを使わせて頂いておりますし、手帳については、ワイシャツの胸ポケットに入れる癖があるので、極カスリムなタイプを好んで使用しております、こちらについてもここ 2 年位は、同じ企業様から頂戴した手帳を使用させていただいております。

カレンダーをお配りの企業の担当者さんが、『うちのヤフオクで売れるよ』ってお話しされていたことがありました。私は売りませんが、たぶん売れそうな程に毎年デザイン性は良いです。

どちらも今年はまだ頂戴しておりません。もしかしたら、年明け早々ご挨拶にお伺いするかもしれません。) ^ o ^ (

その時には、どうぞよろしく願います。

2. 小さなこだわり

[小説の映画化]

東野圭吾原作の『疾風ロンド』の上映がスタートしましたね。多少意見が分かれるところですが、まだ読んでない小説が映画化された場合、皆様は先にどちらを見ますか。私は、先に小説派です。

実は、同作者の名作『容疑者Xの献身』では、筆者は映画を先に見てしまいました。その結果、福山雅治さんと堤真一さんのイメージが常に頭にまとわりついて、読み終えるまで離れることはありませんでした。

それからというもの、どんなに映画を見たくても、先に小説を読んでからというのが、筆者の小さなこだわりに加わりました。

他人には理解してもらえないような小さなこだわりは、わざわざ人に話すほどでもないですが、なかなか譲れないレベルのことが多いです。

皆様は、どんなこだわりがありますか。くだらないことを話合う時間も、たまには必要かもしれませんね。

今まで読んだ小説の中で、一番好きな本は、東野圭吾の『ナミヤ雑貨店の奇蹟』です。



"少し早いですが、新年会
のご案内をいたします"



3. 平成 29 年新年会(第 159 回例会)

主催:アセットブレインズ仙台ネットワーク

[開催日:平成 29 年 1 月 27 日(金)]

平成 29 年・新年会(第 159 回)のご案内

日 程 : 平成 29 年 1 月 27 日(金)

時 間 : 18:30~21:00 2時間30分飲み放題 (受付 18:15~)

会 場 : 表小路(おもてこうじ) 電話:022-264-6254

仙台市青葉区国分町 3-1-18 カメイビル B1F

会 費 : 1名 5,000円 (事前振込み)

申込みご希望の方は、アセットブレインズ仙台ネットワークのホームページトップの[トピックス]から[平成29年・新年会]用紙に必要事項をご記入の FAX もしくはメールにてお知らせ下さい。

《アセットブレインズ仙台ネットワーク》

HP <http://www.asset-b.net/>

e-mail asset-b@ac.auone-net.jp

FAX 022-371-6880

(事務局)

仙台市泉区上谷刈 1-7-35 TEL:022-773-6685 事務局長 佐々木正之



"カジノ法案成立"は、“インバウンド社会の形成”起爆剤と成り得るか。

4. カジノ法案成立とインバウンド社会

カジノ法案が国会の審議で大詰めを迎えております。同法案は日本でカジノ実現に道を開くものだが、超党派の議員立法のため、与党・野党のそれぞれのなかでも賛否が分かれております。訪日外国人誘致による観光立国の推進や国内経済の活性化を図るためとする一方、ギャンブル依存症や治安への影響などが懸念されております。

しかし、近年のインバウンド事情を鑑みれば、全面否定することは現実的ではないと私は思います。2015年に1621万人であった訪日外国人の数でしたが、今年度は既に2000万人を超しており、政府は2020年までに4000万人という目標を掲げております。

日本が訪日客4000万人を実現する為には、ハードのインフラ整備に加え、他国の異文化理解と日本文化の普及が不可欠であります。

「モノの消費」から「コトの消費」へと訪日リピーター客のニーズに変化が生じてきております。熟成社会を迎え始めた日本にとって初めて経験するインバウンド社会が形成される日は、そう遠くはないはずです。

